

グループホーム いこいの里小波瀬

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		子供パトロール等、生活してきた中で関わりのある事をみつけて行っている。又、オンブズマン会議や運営推進会議を行っている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎月、グループホーム内でのミーティングとグループ全体でのミーティングを行っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		毎月のオンブズマン会議と運営推進会議を行っている。又、毎月1回、地域の方々との勉強会を行っている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		町内会の一員として、町内行事には、すべて参加し交流を深めている。子供パトロールや散歩中に挨拶をしている。毎月1回、朝市を開催している。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町内会に参加している。敬老会や盆踊りに参加している。毎月1回の朝市の開催。子供パトロールの実施。

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	地域の祭り等に積極的に参加・協力をしている。慰霊祭・盆踊り大会時の出店等を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価後、ミーティングを行い、評価の意味を話し合い、改善できる部分は改善した。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2ヶ月に一度、運営推進会議を行っている。町役場の介護保険課担当者に参加して頂いている。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	法人としてグループホーム協議会へ参加しており、協議会を通じて要望書を提出し、意見交換をする機会を設けている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	弁護士会や社会福祉協議会主催のセミナー等に参加して知識を深め、利用者・家族からの相談に応じられる適切な行政機関の紹介を行っている。		制度を知らない利用者の方に、このような制度があるという事を理解して、活用支援していきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	関連研修・講習会に参加している。日々の入居者の身体状況を把握し異常がないか確認している。		虐待について学ぶ機会を増し、少しの変化・傷にも徹底的に追求し話し合っていきたい。職員も虐待防止の為に、一息つく時間を取れるようにしていきたい。

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時・解約時だけでなく来所時等、入居者の状態を報告し、家族からの要望等も聞いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付所を作っている。重要事項説明書にも明記している。</p>		<p>日常生活の中で出た不満や苦情は、すぐに話し合い解決していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月家族宛に、1ヶ月のグループホームでの過ごし方・身体状況等を写真と通信・手紙・金銭出納を送付している。</p>		<p>来所しにくい家族に対し、日常生活に変化がある時は、電話等で連絡する。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にて、家族の方や外部の方に参加して頂き、運営に反映させている。</p>		<p>会議に参加しない御家族は、面会時等に話しを伺い、会議で話し合い反映させていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、職場ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞き、記録に残している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化に応じ、職員全員で話し合い勤務調整している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者様お一人お一人への認知度にあわせ説明を行っている。</p>		

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	面接時において男女雇用機会均等法を遵守し、適切な採用が出来るよう勤めている。又、定期的に自己評価を行い業務における目標を設け自己研鑽できるよう努めている。		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	毎月行うミーティングや日常業務の中でも、気がついた点を注意し合っている。(入居者に対する対応・声かけ等)		研修やセミナーへの参加を促し、各スタッフが学べるようにする。
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部での研修・講習案内をコピーし貼り出している。グループ内で月に4回、勉強会を行い参加を促している。		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	毎月、京築地区のグループホームでの勉強会に参加して交流を深めている。		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	就業中でも相談できる別室がある。隣接する同グループ特定施設に施設長が在中し、スタッフの相談に乗っている。		余裕のある介護が出来るように、日勤帯での職員数を考えていきたい。

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的にアンケートを取り、内容に合わせて相談や面接を行っている。		小さな事でも「何でかな？」と思う好奇心をもって働けるように努力していきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が施設内に馴染む迄、細めに声かけをし、個人的に話す場を多く持っている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に何度も面談を行い、お互いに納得行くまで話し合いをしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	運営者と管理者・職員が集まり、必要としている支援について話し合い対応している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約時に十分なアセスメントシートを作り、利用者・家族の意向を聞いている。初期段階では、家族の来訪を細目に行って頂くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、共に過ごす中で会話をし本人の主張を尊重しつつ介護をすすめている。		スタッフと個別で外出する機会を増やしていきたい。

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所時に近況の状態を報告し、入居者の喜んでいた出来事等も報告している。誕生日会・運動会等の行事参加を促している。		家族のいる方は、月に1度 自宅へ帰り一緒に過ごせる時間をもてる様にしたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	細目に状態の変化等について連絡している。家族にも勉強会の参加を促している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅、又は自宅周辺にドライブに行き、他入居者と共に散策している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	将棋・お話等を利用者同士が一緒に行い、コミュニケーションを行っている。		レベルの違う利用者同士でも、楽しい時間が作れるように努めていきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所した利用者の家族に困ってる事があれば相談を受けるような、つながりを作る。また他事業所のサービスを利用される場合はスムーズに移行できるよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何事も強制せずに、本人の生活習慣を把握し、家族と同じ様に過ごして頂いている。		

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時より、本人からや家族からの情報を集めアセスメントシートを作成している。		生活していた環境に利用者と一緒にいき、様子観察を行い、把握に努める。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、介護支援経過表を記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の来所時には、本人の状態を報告し意向を聞き、又施設側からと主治医からの提案を検討しケアプランを作成している。		カンファレンス参加の呼びかけを行い、介護職員・家族等、直接的に意見交換を行える場を作る。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化の度、担当者会議ないし出勤者全員で対応を検討し、アセスメントシートに追加記録し、ケアプランを見直している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録、排尿・排便状況、介護支援経過表、ケアプランチェック表を毎日記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じ、隣接する特定施設への移動や行事・レクリエーション等、大規模に行っている。		近隣する保育園行事に参加し、園児との交流を行う。

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学生の職場体験受け入れや専門学生の研修等を受け入れている。行事の際に呼びかけを行っている。		本人の意向に対し、他機関等と協力が必要な場合、協力要請がスムーズに行えるよう関係を作っていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	日頃より、同業他社との連携を深め利用者の要望を受け入れている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じ、入居者の対応等、協議している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態に応じた病院受診を行っている。又、月に2回、かかりつけ医の訪問診療を受けている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月2回の定期往診、又は受診し、その都度 スタッフが本人の状態についての相談をし、薬についても説明してもらっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	少しでも疑問に思った事等、直ぐに相談している。内容によっては医師に取り次いでくれている。		

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>関連協力病院があり、入院時等 ソーシャルワーカーと密に連絡・相談を行っている。又、入院中は3日に一度の訪院を行っている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時より将来的に終末期の説明を行い、重々に納得できる迄 話し合いを行っている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>家族・第三者・主治医と密に連絡を取り、本人にとって最適なケアが出来るようにしている。24時間対応できる体制を整えている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>移動前より十分なカンファレンスを行い、本人の状態に合わせた環境移動地に情報提供を行っている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録は個別にまとめ、キャビネットに保管している。スタッフ同士で入居者に対する声かけ・言葉使いを常に話し合っている。</p>		

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	日常から入居者との信頼関係を築き、会話や行動の中から本人のやりたい事を見い出し支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や外出がある場合、本人に説明して本人の意向に合わせている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣する際、本人を選んで頂いている。行きつけの美容室がある場合は付き添い、又は 送迎している。		1週間に1度、又は 誕生日等の特別な日に、女性の利用者の方に、お化粧をし オシャレをして頂く。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	漬物・果物等、切っ頂いている。お盆等を拭いて頂いている。おやつ等を一緒に作っている。		個々にあった食事を提供していきたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	果物、甘い物、又 飲み物では、紅茶・コーヒー・ココア等、選んで頂けるようにしている。季節に合った、甘酒や梅酒等も提供している。		入居者の状況に合わせ、外出時に施設内で出来ない喫煙を取り入れてみたい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を基に、時間を見計らいトイレ誘導している。なるべく、紙オムツを使用せずブリーフ・ショーツにて過ごして頂いている。		

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めてはいますが、その日以外でも本人希望があれば入浴して頂いている。深夜でも、希望があればシャワー浴して頂いている。		念に1度、温泉に行き、ゆっくり入浴しています。温泉に行く回数を増やし、入浴を楽しんで頂く。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない時は、スタッフとお茶・夜食等を摂りながら会話をし、落ち着いて頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝市の準備や、食事・配膳等、本人の状態に応じた役割を担ってもらっている。		お花が好きな方は華展等、今まで楽しんで来られた事や所に スタッフが付き添い出かける。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、購入したい物がある場合には、物価に応じたお金を持って頂き、本人に購入して頂いている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日等、その方の状態に応じて近隣を散歩したり、ドライブに出掛け、外出先でおやつを食べたりしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	プロ野球観戦の希望があり、球場へと付き添いを行う。他にも希望があれば、家族とも話し合い出かけられる様に支援している。		

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ電話をかけている。毎月、家族宛の手紙を送っており 本人の手紙も添える事が出来る。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎月の、通信送付の中で行事等の参加も促している。24時間いつでも来訪できる体制をとっている。		家族や知人が来られた時に、他の利用者を気にせずに話しが出来るスペースを作る。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。特例として状況・状態に応じベッド柵等使用している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常にスタッフが入居者全員を把握しており、鍵をかける必要がない。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	トイレ・洗面・浴室と移動する際には、必ず見守り、付き添いを行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	目に触れない場所に保管管理している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書・ヒヤリハットを作成し、全スタッフが対応について協議している。		

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回の消防訓練の際、救急対応の講習を受けている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署と地域の方々にも参加して頂き消防訓練を行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時や状態変化に合わせ、随時 家族に連絡し、対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変時には、直ちに掛かりつけ医に相談・受診している。状態に応じ、管理者に直ちに報告、指示を仰いでいる。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、担当医に薬の説明を聞き、薬の内容書を個々のカルテに添付している。変更のある場合は、申し送りに記録している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表と1日の水分摂取量を記録しており、水分摂取不足の場合、水分を果物等で補っている。		

グループホーム いこいの里小波瀬

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている。就寝前には、義歯の方は外して頂き洗浄剤につけてある。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録の中に、毎食の摂取量と水分の摂取量を記録している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修・講習に参加し、マニュアルを作成している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤帯で、まな板の除菌・ポットの洗浄・冷蔵庫内の食品をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇を造っている。常に階下玄関を開けている。		エレベーターホールを、写真展やギャラリーとして開放する。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ドライブ時や散歩に行った際、草花をとってきて、テーブル等に活かしている。		

グループホーム いこいの里小波瀬

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳スペースを設けている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、以前使っていた家具・布団やアルバム・写真等を持って来てもらっている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間空調されている。毎朝、窓を開け空気の入替えを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部・主要部には全て手摺りを設置している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に顔写真を飾り居室を解り易くしている。トイレ・風呂場・洗面所を示すプレートを下げている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇やベランダの植木鉢にて、利用者が観賞や水やり等を楽しんでいる。		

グループホーム いこいの里小波瀬

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム いこいの里小波瀬

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域との連携・交流を深める為に様々な行事を行い参加して頂いている。 近隣周辺の子供パトロール(毎日) 毎月、第3土曜日に朝市を開催 年末の餅つき大会 区の盆踊り大会での屋台・出店を出店する。 等